

平成 29 年度 国立中央青少年交流の家 教育事業

## アセアン加盟国中学生招聘交流事業

期日：平成 29 年 10 月 16 日（月）～ 10 月 24 日（火）8 泊 9 日

### ○目的

グローバル社会に対応した高い国際感覚を備えた青少年の育成を図ると同時に日本やアセアン諸国の発展に寄与する人材を育成する。

### ○参加者

御殿場市内の中学生（交流） 10名

御殿場市及び近隣の中学生（ホームステイ） 13名

御殿場市立原里中学校生徒 506名

### ○事業の内容

(1) アイスブレイク

(2) ウェルカムパーティー



(3) 日本語学習

(4) 市長表敬訪問

(5) 折り紙体験



(6) 中学校訪問 ～ 御殿場市立原里中学校



(7) 茶道体験



(8) 餅つき体験



(9) 着付け体験



(10) ディスカッション



(11) ホームステイ



(12) 野外炊事



(13) フェアウェルパーティー



アセアン各国の子供達が踊りを披露してくれました。

### 【日本人参加者に対する事後アンケートより】(6段階評価)

- ・日本人として世界に貢献したいと思うか。  
とても思う 80% 思う 10% 少し思う 10%
- ・自分の可能性を広げたいと思うか。  
とても思う 40% 思う 60%
- ・交流した外国人と将来も繋がりを持ちたいと思うか。  
とても思う 90% 思う 10%

### 【日本人参加者の感想より】

- ・僕はもっとしっかりと英語を学びたいと思いました。
- ・アセアンについての興味がより一層深まりました。これからももっと他の国の人と関わり、友達になりたいと思いました。
- ・自分は人とコミュニケーションをとるのが苦手だったけど、だんだんすごく楽しいと思えるようになってきました。

### 《成果と課題》

- ディスカッションやアイスブレイク、野外炊事、パーティー等いろいろな形での交流を行うことで、アセアン生徒と日本人参加者のコミュニケーションを図ることができ、同時に異文化に触れることで、海外への興味を高め、日本人参加者の外向き志向を高めることができた。
- 日本人参加者やホームステイ家庭を募集するにあたって、協力校の負担が大きい。
- 日本人参加者の事前学習を2回実施ということであったが、2回では準備するにはまったく時間的に足りなく、それ以上に増やしていくと日程調整も難しく、日本人参加者への負担が大きい。